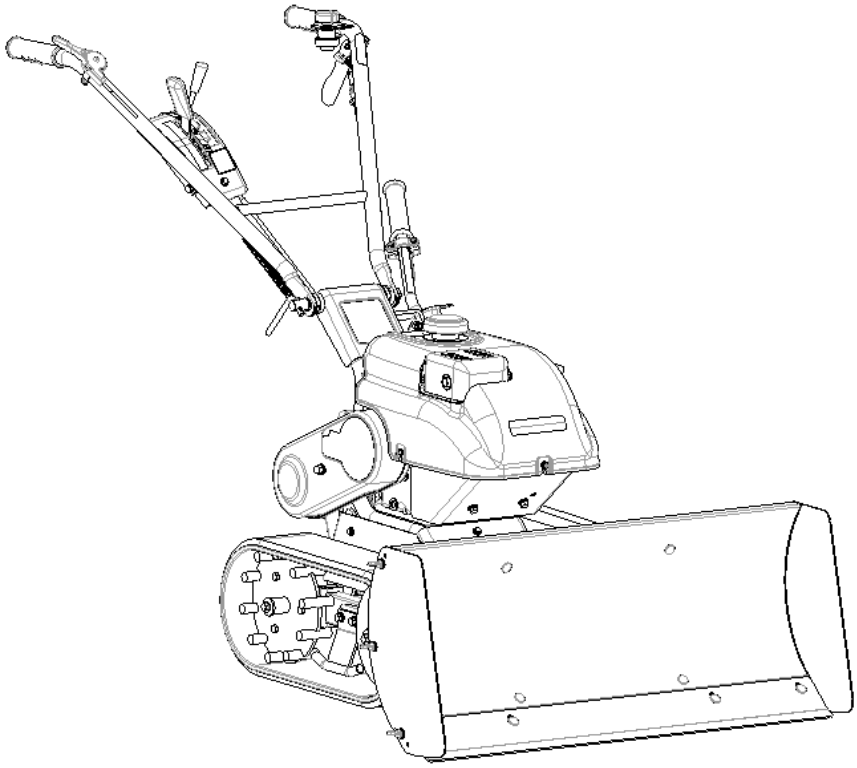
取 扱 説 明 書

共立自走除雪機

ＫＳＧ８０１



0925-70005

●取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
●本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
●取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
●安全性維持のため、本紙定期点検表に従い年次点検をお受けください。(有料)
●本製品の保守には必ずメーカー純正品をご使用ください。

KIORITZ

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

《重要なお知らせ》

a)性能・耐久性向上及びその他諸事情による部品等の変更で、お手元の製品の仕様と本書の内容が一部一致しない場合があります。

b)本書の内容の一部又は全部を無断で複写複製(コピー)する事は、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので予めご注意下さい。

c)本書では説明部位が具体的に理解できるよう、写真、イラストを用いています。説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。

d)本書は日本語を母国語としない方のご使用は対象としていません。

《本製品の規制について》

本製品は一般家庭用の除雪機として開発しておりますので、これ以外の用途(レンタル等、作業者が特定されないような使われ方)では使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合があります。

《保証・契約書・免責事項》

・本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を良く読んで理解しておいて下さい。

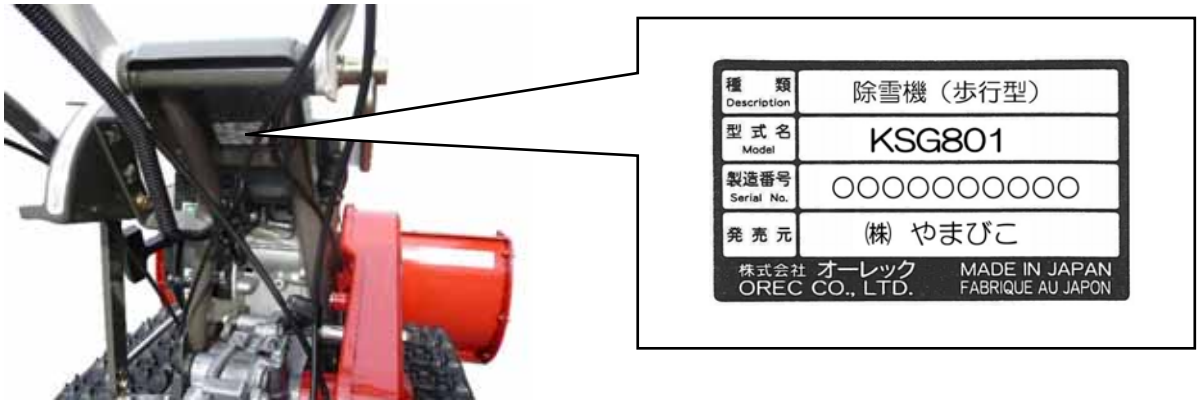
・本製品の保証期間は、新品購入から**１ケ年**、又は**５０使用時間**(請負業務用については**６ケ月**間、もしくは**５０使用時間**)の内どちらか早い時点で到達した方となっています。

・全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業者側も安全への配慮が必要です。

・本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店(以降販売店)までご相談下さい。

・製品を安全に効率よくご使用し続けて頂くためには定期的な点検・整備が不可欠です。「定期自主点検表」及び「年次点検表」に記載のある定期的な点検・整備を必ず最低**毎年１回**は販売店まで依頼しましょう(有料)。これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を越えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。

・ ご不審な点及びサービス等に関するご質問は、販売店までご相談下さい。その際、**『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印又は貼付されています。)』**を併せてご連絡下さい。



◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、**製造打ち切り後９年**と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

シンボルマーク	定　　義
⚠危険	回避しないと、死亡または重傷を招く確率の高い危険な状態を示します。
⚠警告	回避しないと、死亡または重傷を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
⚠注意	回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
注 意	回避しないと物的損害を引き起こす可能性がある潜在的な危険状態を示します。
参 考；	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

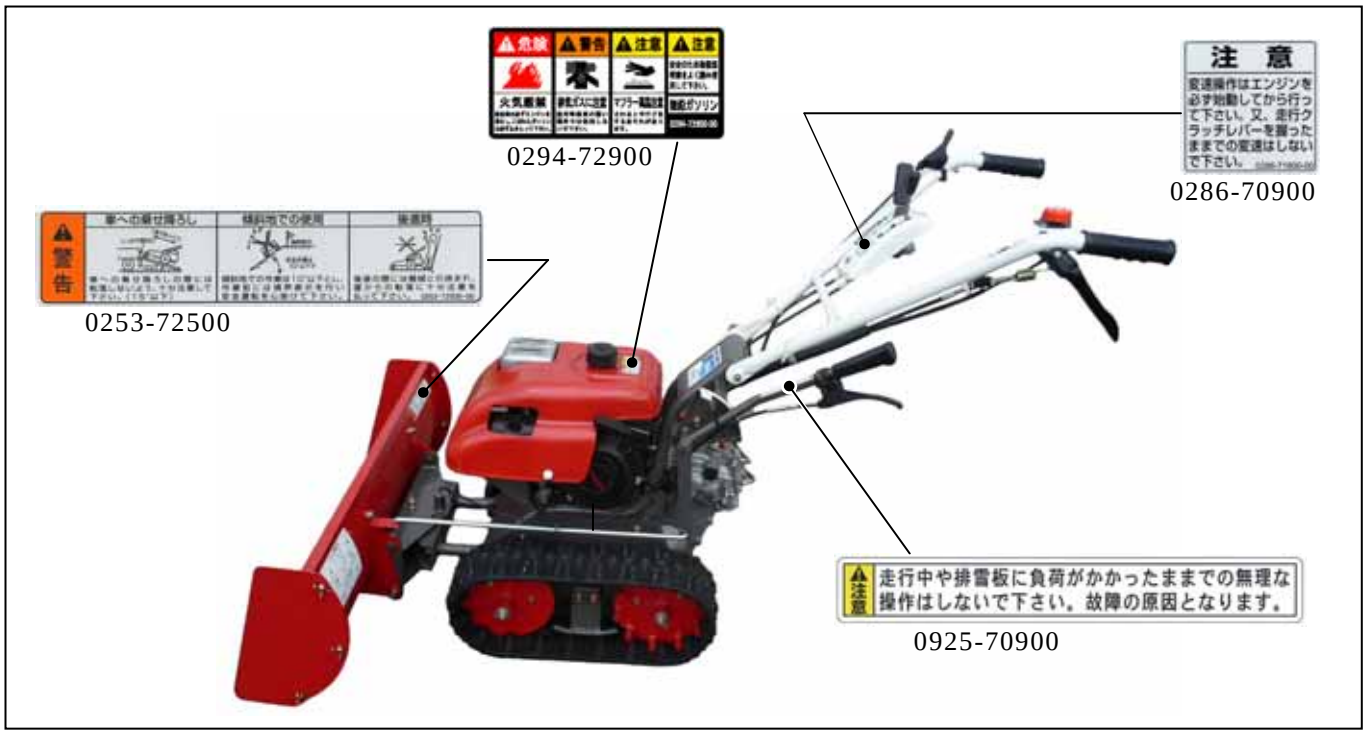
（１） 警告表示マーク

・以下の警告表示マークは本項目内における重要危険事項の中から特に重要なものとして本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、内容を十分理解して必ず守って下さい。

●…**警告表示マークが見えにくくなった場合には、必ず同じものを必ず販売店で購入し、同じ場所へ貼り付けておいて下さい。** 〈23 頁…消耗品一覧参照〉

⚠危険

本製品はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん本製品のそばでのくわえたばこや焚き火等は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。



（２） 作業前の注意

・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
・所有者以外の人は使用しないで下さい。
・過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。

⚠警告 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止め（スパイク）のついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。

・作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等が無いことを確認し、作業中はなるべくこれらのものを近付けないで下さい。

⚠注意 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

⚠警告 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。

⚠警告 １０°を越える傾斜地での作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が１５°を越えると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

⚠警告 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。

・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。

⚠警告 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

注意 安全作業の障害となるような本機の改造は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

（３） 燃料給油時の注意

⚠危険 給油中及び作業中は火気厳禁です。又、燃料をこぼさないように注意し、もし燃料が周囲にこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。燃料への引火爆発の危険があります。

⚠危険 火傷や引火の危険があります。給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

（４） 始動時の注意

・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
・走行クラッチを「㊀」、切換レバーを「**始動**」位置にしてから始動して下さい。
・回りに人や動物や車両等がいない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

（５） 積み降ろし時の注意　　〈12 頁…参照〉

・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。

・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み込みは前進で、降ろすときには後進位置でいずれも「」位置でゆっくり行い、その他の位置には絶対入れないで下さい。

（６） 作業中の注意

・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

⚠注意 健康のため、１時間以上継続して製品を使用することは避けてください。必ず１時間毎に１０分程度の休息を取るようにして下さい。

⚠注意 排気マフラは高温となります。火傷をしないよう手等を近づけないで下さい。

・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。(該当製品)

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

（７） 作業終了後の注意

・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。(該当製品)

・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

（８） 点検・整備時の注意

注意　品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。始業・月次点検は所有者ご自身で、年次点検は販売店(有料)へご依頼下さい。定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意下さい。

⚠警告 ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検、また作業終了後に再度点検し、必要な修理をしておいて下さい。（該当製品）

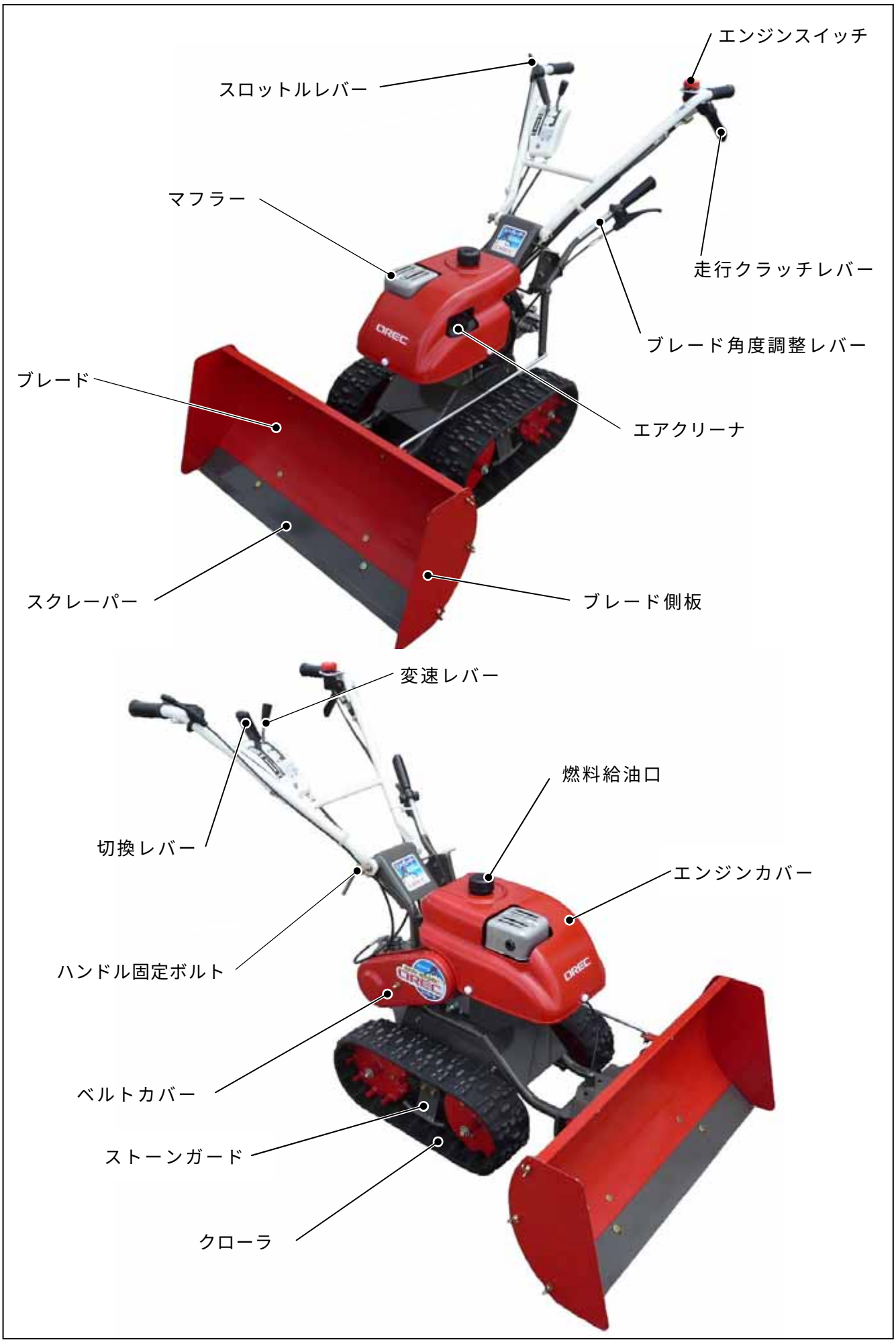
・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取付けて下さい。

注意 燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。３年毎、又傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

・走行クラッチ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行って下さい。

⚠注意 点検・整備又はシートをかける場合には火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上(エンジン停止後１０分以上)で行って下さい。

《各部の名称》


エンジンスイッチ
スロットルレバー
マフラー
走行クラッチレバー
ブレード角度調整レバー
ブレード
エアクリーナ
スクレーパー
ブレード側板
変速レバー
燃料給油口
切換レバー
エンジンカバー
ハンドル固定ボルト
ベルトカバー
ストーンガード
クローラ

《各部のはたらき》

①走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーをハンドルと一緒に握ると「㊎」位置の状態、離すと「㊐」位置の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

②変速レバー

走行速度の選択時に操作します。変速は前進が「①」、「②」の２段で、後進が「①」の１段です。

変速は走行クラッチレバーから手を離し、本機を停止させた後操作して下さい。

「①」位置ではゆっくりと、「②」位置ではスピーディーな前進が行えます。

⚠注意

変速レバーの操作は**必ずエンジンを始動し、切換レバーを「作業」位置にし**、走行クラッチレバーを「**切**」位置にして行って下さい。走行クラッチレバーを握ったまま変速レバーの操作を行うと、ミッション内部のギヤが破損する恐れがあります。

③切換レバー

エンジン始動時と走行作業時を切り換えるレバーです。始動時には必ず「始動」の位置に、作業時は「作業」の位置にして下さい。

④スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

⑤ハンドル固定ボルト

作業者の体格、又は作業状況に応じてハンドルの高さを調整します。調整はボルトを左に回して緩め、ハンドルの位置を作業者あるいは作業状況に合わせた後、菊座の山と谷がかみ合う位置で、ボルトを右に回してしっかりと締め付けます。

⑥エンジンスイッチ

エンジンの「運転」・「停止」の操作を行ないます。

⑦ブレード（排雪板）

この面に雪を受けて押していきます。ハンドルの上下動に連動して、ブレードも上下します。又、作業に応じて上下、左右に角度調節ができます。

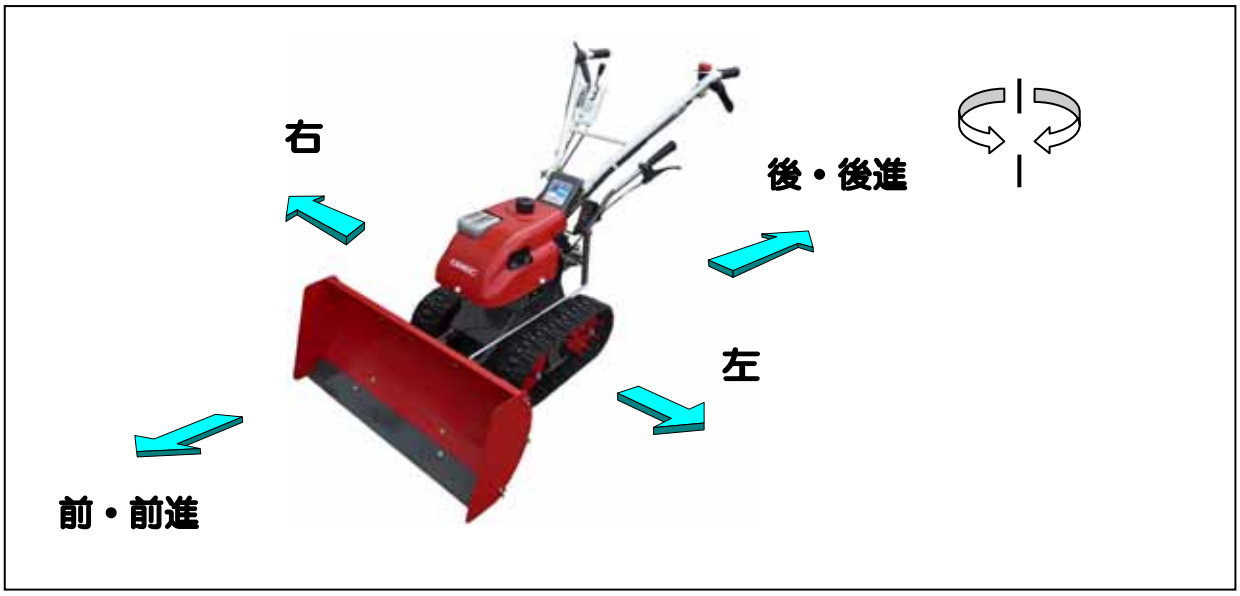
⑧ブレード角度調整レバー

作業に応じてブレードの左右角度を調整します。グリップ部のレバーを握りながら本レバーを上下に動かすことでブレードが左右に回動し、15 度と 30 度位置で固定できます。

《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。



《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために**「定期自主点検表」**〈25 頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

⚠ 警告

本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

エンジンの始動・停止のしかた

⚠ 警告

①締め切った室内でエンジンの始動及び暖機運転をしないで下さい。

… 有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。

②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。

③エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

⚠ 注意

・ エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。(運転中のマフラは高温になります。誤って触らないよう注意下さい。)

・本機には完成検査時にすでに規定量のエンジンオイルが注油されていますが、始動前には必ずエンジンオイル量を確認して下さい。



■エンジン始動のしかた

① エンジンオイルを確認して下さい。

◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。

オイルゲージの上と下の目盛線の間にオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

…エンジンオイルの補給は付属のジョウゴにホースをつないでもできます。(共に付属工具袋に入っています。)…

参考；

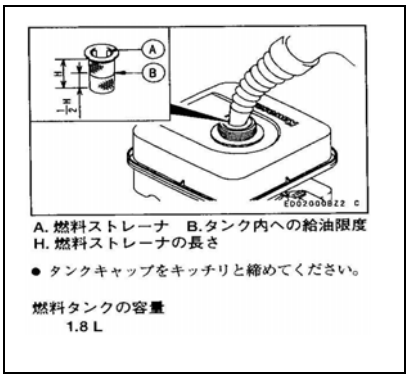
・エンジンは**水平**にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
・使用するエンジンオイルはＳＤ級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏季（１０℃以上）	ＳＡＥ３０，ＳＡＥ１０Ｗ－３０，又はＳＡＥ４０
冬季（１０℃以下）	ＳＡＥ５Ｗ２０，又はＳＡＥ１０Ｗ－３０

⚠危険

●燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
●エンジンとマフラが冷えた後､入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し､もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。

■燃料の点検と補給

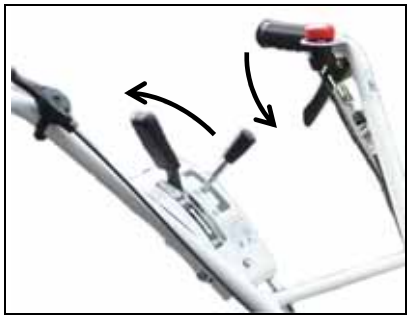


②燃料を確認して下さい。
燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。
〈燃料タンク容量は 22 頁…仕様参照〉
・左図を参考に燃料を給油して下さい。
・燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
傾斜地での使用は、給油口内フィルタの規定油面上限以下で使用して下さい。

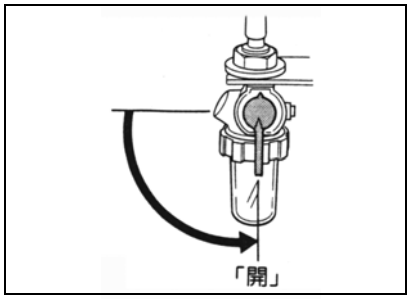
⚠注意

● 燃料は常に新しいもの使用して下さい。古い燃料又は長期間(３ケ月以上)ポリタンクに保管した燃料は、エンジンの不調や破損の原因となることがあります。

■エンジン始動のしかた



③走行クラッチレバーは必ず「㊀」位置にして下さい。
又、切換レバーを「**始動**」の位置にして下さい。



④燃料コックを「開(ON)」位置にして下さい。

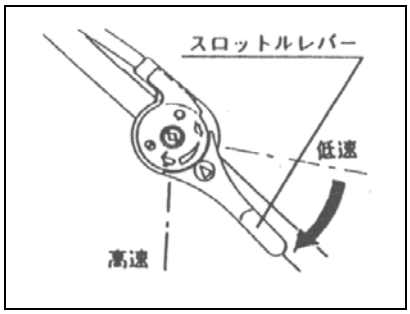


⑤エンジンスイッチを右に回し「運転」位置にして、上に引き上げて下さい。（確実にロックした事を確認して下さい）



⑥チョークレバーを操作し、チョーク弁を「全閉」位置にして下さい。

参考；エンジンが暖まっている時は、チョークレバーの操作は必要ありません。



⑦スロットルレバーを「」と「」位置の中間位置にして下さい。



⑧スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張って下さい。
エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻して下さい。



参考；
スタータノブを５回以上連続して引いても始動しない場合はチョークレバーを「半開」の位置にして、スタータノブを引いて下さい。それでも始動しない場合は、再度上記⑦の操作からやり直して下さい。



⑨エンジン始動後はチョークレバーを戻し、チョーク弁を「全開」位置にしてスロットルレバーを低速側「」位置でしばらく**(5 分程度)の暖機運転**を行って下さい。
暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命をのばします。

⚠注意

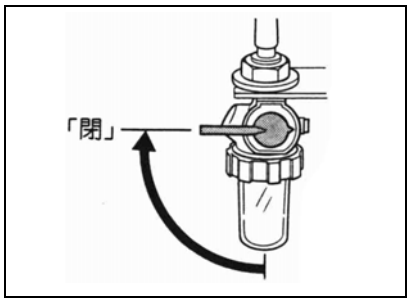
・新製品購入後、最初の一週間(3～4 時間)は、慣らし運転期間として、過負荷をかけない様に控えめな運転を心がけて下さい。

・チョークレバーを「全閉」のまま使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意下さい。

■エンジン停止のしかた



⑩スロットルレバーを低速「🐢」位置にし、エンジンスイッチを押して「停止」位置にしてエンジンを停止して下さい。



⑪最後に燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。

走行・旋回・変速・停止のしかた

⚠注意

■所有者以外の人には使用させないで下さい。

■走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。

■走行のしかた



①エンジンを始動させて下さい。
〈8 頁エンジン始動のしかた参照〉

② 切換レバーを「作業」の位置にして下さい。

③変速レバーを「①」或いは「②」に入れて下さい。

⚠注意

変速操作は必ずエンジンを始動し、切換レバーを作業の位置に入れてから行って下さい。
変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあり、大変危険です。
ギヤが入りにくい時には、無理に入れずに走行クラッチレバーを「Ⓐ」方向に少し移動させるか本機を前後に振ってみて再度確実に変速操作を行って下さい。



③スロットルレバーを「」と「」との中間位置にし、走行クラッチレバーをハンドルと一緒に握ると走行します。



■旋回のしかた

ハンドルを押し下げ、ブレード部分を地面から少し浮かせるようにして、低速で走らせながらハンドルを任意の方向にふって車体の向きを変えていきます。
この時、無理な操作や急旋回はしないで下さい。



■変速のしかた

①走行クラッチレバーから手を離し「㊥」位置にして下さい。

参考；

走行クラッチレバーを「㊓」位置のまま変速レバーの操作を繰り返し行なうと、故障の原因となります。



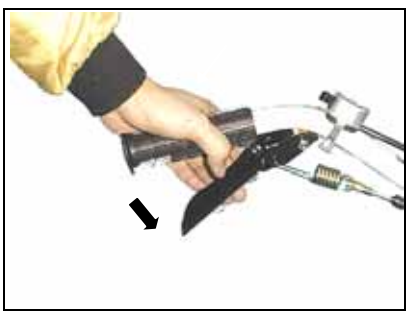
②変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に入れ替えて下さい。



③走行クラッチレバーをハンドルと共に握り、「㊓」位置にして再発進して下さい。

参考；

高速「②」位置で、ミッション内部より“ｶﾗｶﾗ”と音が発生する場合がありますが、これは変速機構の関係で高速ギヤが回転する音です。異常ではありません。安心してご使用ください。



■停止のしかた

①走行クラッチレバーから手を離し、「㊥」位置にして本機を停止して下さい。



②エンジンを停止して下さい。

〈10 頁エンジン停止のしかた参照〉

⚠注意

・本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。

・本機を離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。

・エンジンを停止したまま軽く押して移動ができます。(走行クラッチレバー「㊀」位置)

トラックへの積み降ろしのしかた

⚠警告

●運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。

●トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。

・トラックは動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。

・ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。

・積み降ろし時に､ブリッジ上でレバー類の操作はしないで下さい｡転倒の恐れがあります。

・積み降ろしは本機の車輪がそれぞれブリッジの中央に位置するようにして下さい。

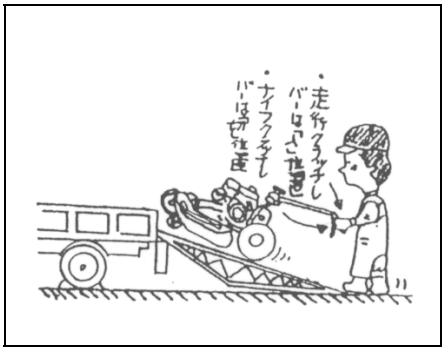
・本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。

・トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、更に荷台の上で動かないよう**｢車止め｣**を掛ければさらに安全です。

⚠危険

本機の移動時は、必要以上に本機を傾けないで下さい。燃料が漏れ出す恐れがあります。
万一、引火した場合には火災や死傷する恐れがあります。

■積み降ろしのしかた



①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。

②基準にあったブリッジを使用して下さい。

③スロットルレバーは「 」、「 」の中間位置にして下さい。

④積み降ろしはどちらも変速レバー「①」位置で行なって下さい。
その他の位置にはしないで下さい。

《上手な作業のしかた》

除雪作業のしかた

⚠警告

●安全のため、標準で装着されているカバー類は必ず装着したまま作業を行って下さい。取り外したままの作業は大変危険です。

●使用場所内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜(限界傾斜角度 10°)のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。

●作業範囲以内に人(特に子供)が入り込まないよう、作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、作業範囲以内にこれらのものを近づけないで下さい。

⚠注意

・作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、スパイク靴や帽子又はヘルメット、等を常に着用して下さい。

・石や突起物等の多い場所での作業については、これらによる被害を防止するためブレードの高さを調節する等して、安全には十分注意して下さい。

・本機運転中のエンジンマフラは高温になり、誤って触ったりすると火傷の危険があります。運転中及び運転停止後約 10 分の間マフラには絶対に触らないで下さい。

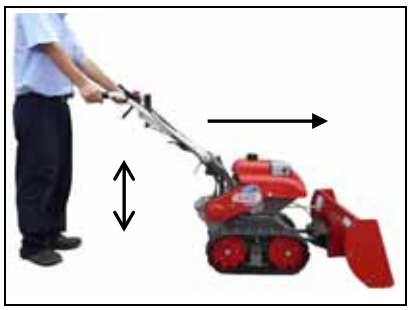
作業や体格に合わせたハンドル高さの調整



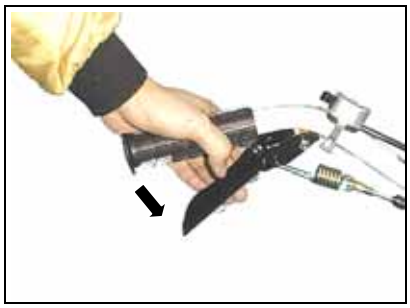
①ハンドルの位置を作業者の体格や作業状況に応じて上下に調整して下さい。
ハンドル固定ボルトを左に回して緩め、上下の調整後、右に回し、しっかりと締め込み、ハンドルの角度を固定して下さい。



② エンジンを始動させて下さい。
③ 切換レバーを「作業」の位置にして下さい。
④ 変速レバーを「①」或いは「②」位置にして下さい。
⑤ スロットルレバーを高速  」位置にして下さい。
⑥ 走行クラッチレバーをハンドルと一緒に握ると発進し、作業を開始します。 〈10 頁走行のしかた参照〉



⑦ 地面の突起物や雪の量に応じて、ハンドルを上下に動かしてブレードの高さを調節しながら、押していって下さい。



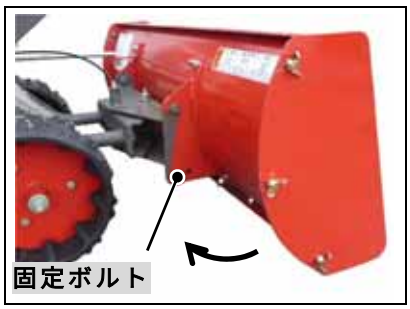
⑧ 停止したい時は、走行クラッチレバーを離します。



⑨ バックする場合は、走行クラッチレバーを離したまま、スロットルレバーを一旦**「低速」**の位置に戻してから変速レバーを**「R」**の位置に入れて、後方に障害物が無いことを確認してから走行クラッチレバーを**「入」**にして下さい

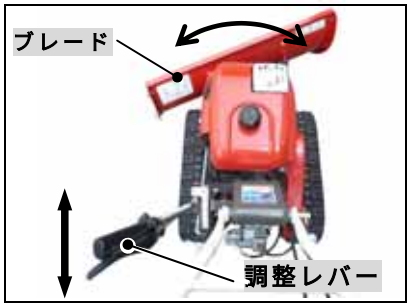
⑩ ⑥～⑨の作業を繰り返し行なって下さい。

⑪ 作業を終了する場合には、〈11 頁停止のしかた〉を参照して走行及びエンジンの停止処置を行なって下さい。



・作業状況に応じてブレードの上下角度が調節できます。
・固定ボルトで所要の穴位置で締め付けて下さい。

■片寄せ作業のしかた



・ブレードを進行方向にたいして左右に角度調節することにより片寄せ作業ができます。
（左右各 15 度、30 度の位置で固定可）
・ブレード角度調整レバーのグリップ部レバーを握りながら調整レバーを上下に動かし所定の位置で離すと固定されます。
・ブレード側板は取外してお使い下さい。（取付の蝶ボルトを 2 回転程緩めるだけで、脱着が可能です。）

・安全のため、最初は「①」位置からスタートし、周囲の安全を確かめた上で作業条件に合った作業速度にして下さい。
・作業中障害物に当たった時はすぐにエンジンを停止させ、損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

参考；

・雪の量が多く、頻繁にエンジンがストップしたり、走行がスリップするようであれば作業速度を一段落とすか、ブレードの高さを高くして数回に分けて行なって下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

注意

・出荷時本機にオイルは注油されておりますが、初めて本機をご使用になる前には、必ず規定量のオイルが入っていることを確認の上、作業を始めて下さい。
・定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。
・各部オイルの点検・交換・注油をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを（約 5 分以上）待ってから作業を行って下さい。

… エンジン停止後、すぐに作業を行うと …

＊エンジン本体はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

＊エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

■交換後の廃油は、お住まいの地方公共団体の取り決めに従い適切に処理をして下さい■

ミッションオイルの点検・補給・交換

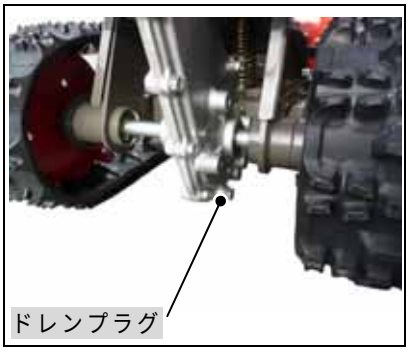
※注油は少しずつおこなって下さい。一度に注油しようとすると、エアが抜けずに注油口よりすぐにオイルが溢れ出ます。

◎ 点検・補給… 注油量を厳守下さい。



①ミッションケース左側上部の検油栓（検油口）を取外し、検油口からオイルがにじみ出てきたら、ほぼ規定量のミッションオイルが入っています。
②オイルの量及び汚れを目視点検し、オイルが不足している場合及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換（下記参照）します。

◎ 交　換…



③オイルを受ける適当な容器を用意します。
④ミッションケース左側面下部(車軸下部)のドレンプラグ(排油栓)を取り外し、オイルを抜き取ります。

参考;
同時に注油栓も取り外しておくと、オイルが抜き取やすくなります。

⑤ドレンプラグを確実に取り付けた後、ミッションオイル**(夏:＃90,冬:＃80)を 0.７５㍑**注油して下さい。

本機出荷時には＃80 のオイルが注油されています。

交換の目安
初回：２０時間目、２回目以降：１００時間毎

エンジンオイルの点検・補給・交換



◎ 点検・補給…

①毎日、もしくは８時間毎に〈7 頁…エンジン始動のしかた〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し、規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換（下記参照）して下さい。
（使用するエンジンオイルの質及び量は 7 頁と 22 頁参照）



◎ 交　換…

②オイルを受け取る適当な容器を用意します。
③エンジン側下部にあるドレンプラグ(排油栓)を取り外し、クランクケース内のオイルを抜き取ります。
参考；同時に給油栓も取り外しておくと、オイルが抜き取りやすくなります。
④オイル排出後、ドレンプラグを確実に取り付けて下さい。
⑤〈7 頁…エンジン始動のしかた〉を参考に指定のエンジンオイルを注油して下さい。

交換の目安
初回：２０時間目、２回目以降：５０時間毎

■但し、高負荷又は高温下で連続長時間使用する場合には、上記目安より早めの交換(約半分の時間)を励行して下さい。
■交換後は取り外したカバー、給油栓は確実に取り付けて下さい。

可動部への注油のしかた

◎約３０時間毎にグリスを、又その他の部分には必要に応じてエンジンオイル(＃30)を注油して下さい。特にグリスの注油を怠ると潤滑不良により破損の原因となる恐れもあります。

ｶﾞｲﾄﾞﾋﾟﾝ･誘導輪軸･ﾘﾝｸﾋﾟﾝ



走行ｸﾗｯﾁﾜｲﾔｰ



変速ﾜｲﾔｰ･主ｸﾗｯﾁﾜｲﾔｰ

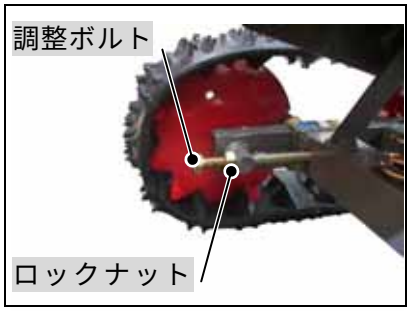


《各部の点検・整備・調整のしかた》

クローラ張り調整のしかた

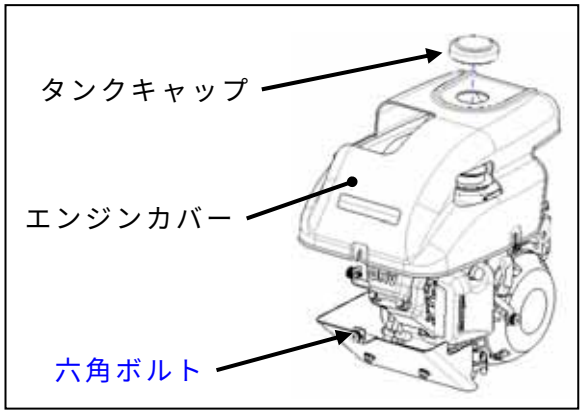
⚠注意

クローラは新品時には初期伸びが、使用時間の経過とともに、スプロケットとのなじみによる緩みが生じてきます。
クローラの張りが正しく調整されてないと脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮めますので以下の要領に従って、クローラの張りを調整して下さい。



①車体フレーム前部の調整ボルトのロックナット（M12）を緩めて下さい。（左右とも）
②調整ボルトをスパナ等で時計回りに回していくと張る方向、反時計回りだと緩める方向になります。
③クローラに大きなたるみがなくなるように、又、左右の張りが均等になるよう調整して下さい。
④調整後、ロックナットを締付けてロックして下さい。（左右とも）

エンジンカバーの取外しかた



エンジンのエアクリーナや点火プラグ等の点検・整備の際は、エンジンカバーを取外して行って下さい。

□取外しかた
タンクキャップを外し、六角ボルト（3ヶ所）をゆるめて、エンジンカバー後部内側の爪を燃料タンクのツバから外し、上に引き上げて下さい。外した後は、必ずタンクキャップを元通りに取付けて下さい。

取り付ける際は、上記と逆の要領で行って下さい。

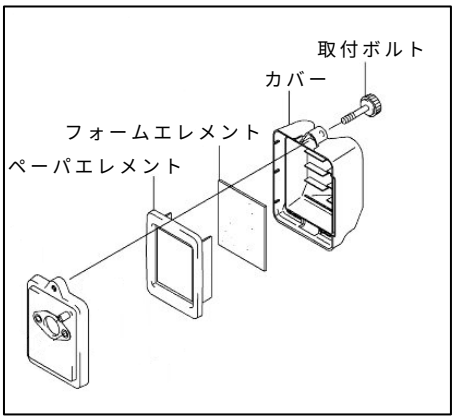
エアクリーナの清掃のしかた

⚠警告

●エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に点検し清掃して下さい。
…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。
ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。

■乾　式

カワサキ FJ100D



①カバーを取外し、ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意深くエレメントを取出してして下さい。
②フォームエレメントは、中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。
③ペーパエレメントは軽く叩くか、内部からエア吹きしてホコリやゴミを落として下さい。
④ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元通りに組み付けて下さい。

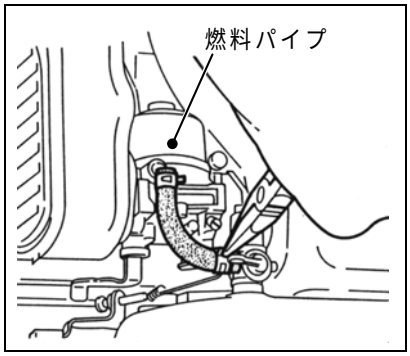
参考；洗浄時、フォームエレメントを強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れ使用できなくなります。

…エアクリーナの清掃、交換時期について…

	清掃	交換
フオームエレメント	… 25 時間毎	100 時間毎
ペーパエレメント	… 25 時間毎	100 時間毎

チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

燃料パイプの点検のしかた



⚠危険

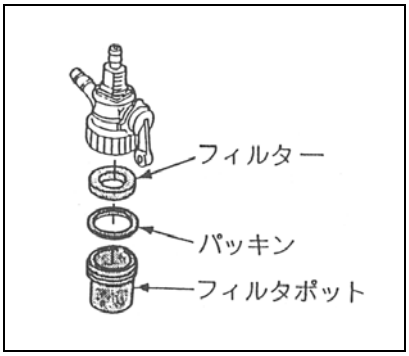
くわえタバコや裸火照明での作業禁止

・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に３年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。

・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていな いか常に注意して下さい。

参考；パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルタポットの清掃のしかた



⚠危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止

・50 時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。

・作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。

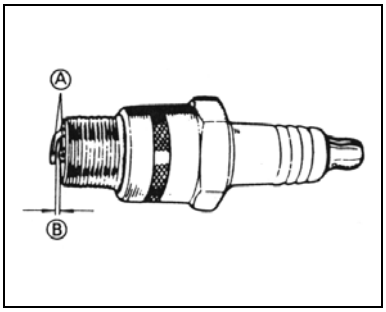
①燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。

②燃料フィルタポットを外し、底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）及びフィルタを引火性の低い灯油等の溶剤で洗浄し、エアを吹き付けて乾燥させて下さい。

⚠警告

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

点火プラグの点検・調整のしかた



①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Ⓐにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。

②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。

③点火プラグの電極隙間Ⓑを 0.7～0.8mm に調整して下さい。

参考；

締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでから(ガスケットが座面に当たるまで)プラグレンチを使用して下さい。

初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

＜点火プラグ基準…22 頁《仕様》参照＞

≪そのほかの点検≫

①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。（毎回始業時）

②Ｖベルトは初期伸びしますので、**２～３**時間運転後に再調整して下さい。

〈20 頁…走行ベルト調整参照〉

③本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。

④各部を十分に馴染ませる為、最初の２～３時間は無理な作業はさけて下さい。

⑤作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行って下さい。

〈25 頁…定期自主点検表参照〉

⑥各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。

⑦本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検して下さい。

●もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。

●オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

各部ワイヤ・ベルト調整のしかた

⚠注意

各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。

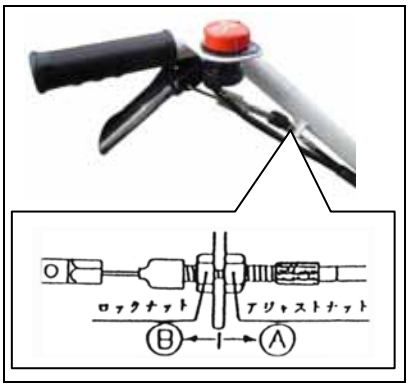


図 1

■走行クラッチワイヤ調整

図１を参考に走行クラッチワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□走行クラッチを入れても負荷がかかると本機が停止する場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

□走行クラッチレバーを切っても本機が停止しにくい場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

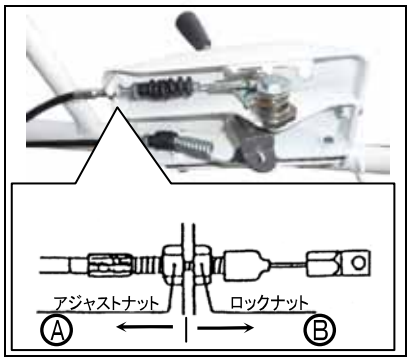


図 2

■変速ワイヤ調整

図 2 を参考に変速ワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□「R」位置へのシフトが不完全で負荷がかかると変速が抜ける場合や「②」位置でのレバーの遊びが大きい場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

□「②」位置へのシフトが不完全で負荷がかかると変速が抜ける場合や「R」位置までレバーが動かない場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

参考；

変速操作は必ずエンジンを始動させて切換レバーを作業位置に入れてから行って下さい。エンジン停止時の変速レバーの無理な操作は故障の原因となります。　変速レバーが「②」位置の時、レバー根元での遊びが 0~1mm 程度になるよう調整して下さい。

■主クラッチワイヤ調整

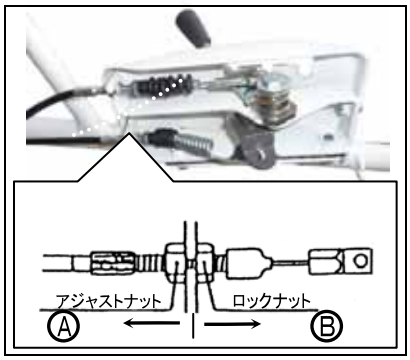


図 3

図 3 を参考に主クラッチワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□切換レバーを「**作業**」位置へ入れて、走行クラッチを入れても負荷がかかると本機が停止する場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

□切換レバーが「**始動**」位置で、走行ベルトがつれ回りする場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

■走行ベルト調整

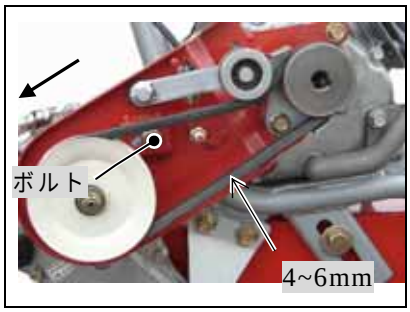


図 4

ベルトの交換を行なった場合や、上記ワイヤー調整範囲を越えた場合は図 4 を参考にベルトの張り、ベルト押えの調整をして下さい。

□ベルトの張り調整

切換レバーを「作業」の位置にし、ベルトの下側中央部を指先で押してみて、4~6mm 程度のたわみがあれば正常です。

基準値以上にベルトがたわむときには、図 4 を参考にミッションを固定している 1 ヶ所のネジを緩め、ミッションケースを左図矢印方向に動かしてベルトの張りを調整して下さい。

この際、主クラッチワイヤーの調整も行なって下さい。

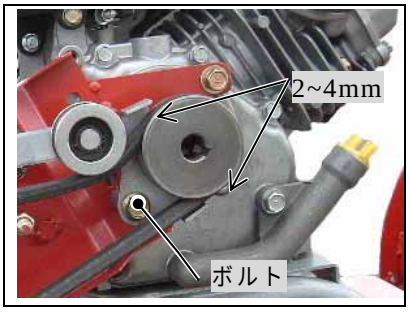


図 5

□ベルト押え調整

ベルト押えの位置は、ベルトを張った状態で、ベルトとのすき間が上下とも 2～4mm 程度になるよう、左図ボルトを緩めて調整して下さい。

上記調整終了後、切換レバーを「始動」の位置にしてエンジンのスタータノブを数回引き、ベルトのつれ回りがない事を確認して下さい。

⚠ 注意

- 調整後はロックナットを確実に締めつけておいて下さい。
- 調整のために取り外したカバー類は必ず元のとおりに取り付けて下さい。
- 調整後は、クラッチレバーの「㊉」・「㊊」の動作確認を必ず行って下さい。
- ベルトは、初期のびが多少ありますので、新品より 2~3 時間運転後、再度調整して下さい。
- ベルトは消耗品です。異常があれば新品と交換して下さい。

ベルトサイズは 22 頁《仕様》参照。

《機械を他人に貸すときは…》

⚠警告

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

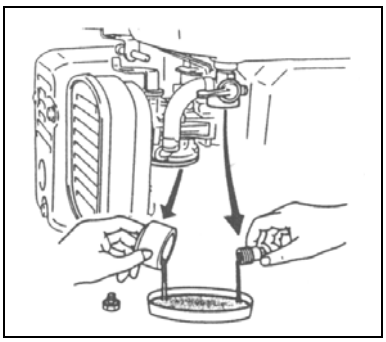
《長期保管のしかた》

□燃料タンクやキャブレタ内に燃料を残したまま長期間製品を放置すると、再始動困難や出力低下等のトラブルの原因となります。□

⚠危険

■エンジンを停止して下さい。〈10 頁…エンジン停止のしかた参照〉

- **燃料を抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや裸火照明等の火気には十分注意し、抜いた燃料の取扱いには十分に注意して下さい。**
- **本機は、固い平坦な場所で水平にして保管して下さい。**
- **燃料タンク内のガソリンを抜く時、又は本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラが十分に冷えているのを確認してからにして下さい。**



①本機を３０日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料タンク及び気化器内の燃料を抜き取って下さい。

- 燃料タンク内の燃料は、燃料フィルタポットを外し、受け皿等を当ててから燃料コックを「開(ON)」位置にして抜き取って下さい。
- 気化器内の燃料は下部のフロート室締め付けボルトを外して抜いて下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。〈15 頁…エンジンオイル交換参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…草やホコリが堆積したまま作業を続けると…

草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や火災の原因にもなりかねません。

⑤各給脂・注油箇所にそれぞれ注油をして、不具合箇所は修理しておいて下さい。

⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけて、ほこりがつかないようにして下さい。

（＊本機カバーは付属していません。）

《仕　様》(参考数値)

名　　称		共立自走除雪機
型　　式		ＫＳＧ８０１
全長×全幅×前高(㎜)		1,460×840×990
作　業　幅(㎜)		800
重　　量(kg)		71
走行ベルト(本)		HP-Ⅱ　SA25×1
車　　輪		ゴムクローラ　120×20×60　×2
ハンドル		菊座固定式（上下調整可）
車速(㎞/m)		前進　①　2.2　②　3.7　後進　①　2.9
主・走行クラッチ		ベルトテンション＋噛み合いクラッチ式
ミッションオイル(ﾘｯﾄﾙ)		0.75
エンジン	名　称	カワサキ
	型　式	FJ100D
	排気量(cc)	99
	潤滑油量(ﾘｯﾄﾙ)	0.45
	始動方式	リコイルスタータ
	点火プラグ	B6HS
	タンク容量(ﾘｯﾄﾙ)	1.6

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部　品　名	規格・寸法	個数	備　　考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	
3.	エンジン工具	エンジン付属	1	
4.	注油用ジョウゴ		1	
	〃　　ホース		1	
5.	両口スパナ	10×12	1	
6.	〃	14×17	1	

《別売オプション》

No.	部　品　名	部　品　番　号	個数/台	備　　考
1.	運搬用キャリヤー	0918-80000	1	ブレード部取替え式
2.	ゴムスクレーパーセット	0925-80100	1	路面損傷防止用
3.	ウエイトセット 12kg	0925-80200	1	車輪取付タイプ
4.	車体カバー	0925-80800	1	

《消耗品明細》

No.	部　品　名	部　品　番　号	個数/台	備　　考
1.	走行ベルト	89-6132-002501	1	HP-Ⅱ　SA-25
2.	走行クラッチワイヤー	0925-70310	1	
3.	走行チェンジワイヤー	0925-70410	1	
4.	主クラッチワイヤー	0925-70510	1	
5.	ロックワイヤー	0925-70600	1	
6.	スロットルワイヤー	0286-72600	1	
7.	ゴムクローラ	0309-33100	1	
8.	ブレード	0925-21100	1	幅 80cm
9.	スクレーパー	0925-21800	1	幅 80cm
10.	走行シフトアーム	0286-01400	1	
11.	警告マーク　4	0253-72500	1	

《自己診断表》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をして下さい。

現　　象	原　　因	処　　置
走行しない。	走行クラッチが抜けかけている。	走行クラッチワイヤの調整。
	走行クラッチワイヤの固着。	新しいワイヤと交換する。
	切換レバーが「始動」位置になっている。	切換レバーを「作業」位置にする。
	ベルトがスリップしている。	ベルトの張力を調整する。
	足まわりに異物がかみ込んでいる。	異物を除去する。
	ミッションの不具合。	ミッションの修理。
ベルトがスリップする。	ベルトの張力が低い。	ベルトの張力を調整する。
	ベルトの摩耗。	新しいベルトと交換する。
	足まわりに異物がかみ込んでいる。	異物を除去する。
変速しない。	変速の位置がズレている。	変速ワイヤの調整
	変速ワイヤの固着。	新しいワイヤと交換する。
	ミッションの不具合。	ミッションの修理。
走行が止まらない。	走行クラッチが入りっぱなし。	走行クラッチワイヤの調整。
	走行クラッチワイヤの固着。	新しいワイヤと交換する。
	ミッションの不具合。	ミッションの修理。
作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	足まわりに異物がからまっている。	異物を除去する。
	押す雪の量が多すぎる。	数回に分けて作業する。
タイヤがスリップする。	押す雪の量が多すぎる。	数回に分けて作業する。
	地面の突起物にひっかっている。	突起物を除去するか、ブレードを上げる。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
エンジンがかからない。	エンジンスイッチの不良。	エンジンスイッチを交換する。
エンジンが止まらない。	エンジンスイッチの不良。	エンジンスイッチを交換する。
	ハーネスの端子外れ、断線。	元通り結線、修復する。
注油栓が作業中飛び出した。	ミッションオイルの入れすぎ。(内圧過上昇)	正規のオイル量にする。

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現　　象	原　　因	処　　置
始動困難な場合 （始動しない場合）	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークﾚﾊﾞｰを引いていない。	エンジン冷却時、チョークﾚﾊﾞｰをN位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	＊点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークﾚﾊﾞｰを完全に戻す。||| 位置にする。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークﾚﾊﾞｰを完全に戻す。||| 位置にする。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	＊リングを交換する。
エンジン回転が安定しない（上昇しない）	チョークが完全に開いていない。	チョークﾚﾊﾞｰを完全に戻す。||| 位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	＊点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は１年に１回、月次点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目		点検内容		点検実施時期		
				始業	月次	年次
原動機	本体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。		○	○
		⑤シリンダヘッドと各マニホルド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 ＊（正常締付トルクで弛みはないか）			○
		＊⑥弁隙間	（正規の隙間であるか）			○
		＊⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
	燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○
		②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○
		③燃料の量・質。	燃料は入っているか、又質は良いか。	○	○	○
	電気装置	電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○
	清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○
		②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○
	冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○
		②マフラへの草屑等の堆積。	マフラ周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○
伝達装置	ベルト	①弛み。	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ。	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○
		③油漏れ。	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○
車体	車体	亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。		○	○
	カバー	亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	ﾚﾊﾞｰ、ﾜｲﾔ	レバー、ワイヤの損傷､弛み､ガタ､割ピンの欠損。	作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
走行装置	クローラ	①クローラの張り。	張り具合は適切か。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落。	ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示ﾏｰｸ	損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

株式会社やまびこ

〒198-8760 **東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6181**

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

(C) 2013 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。